

おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第71号』 2016年冬

発行：さざんか会本部/船橋市行田 2-8-1 ☎047-404-1135

編集：おーぷん編集委員会（けいよう） 船橋市二和西5-10-1 ☎047-411-8177

日々の権利擁護

さざんか会 理事長 宮代隆治

以前、千葉県の地域福祉支援計画を作るとき、地域福祉像を端的に表す言葉として、「誰もがあのままに その人らしく…」という表現を用いました。「その人らしく」は「自分らしく」でもあります。この言葉は、どう解みましょうか。「自分らしく暮らしたい」とか「自分らしさを大切に」等もよく耳にしますね。人は、一人ひとりが異なって当然です。そこに個性があり、千差

万別の世界が出現します。外形、見た目であれ内面、心の持ちようであれ。趣味趣向も、思想もそうです。それらが、当人にとっていつも意向に沿って活用され、自我が発揮され、満足や快感が得られてこそ、「自分らしさ」の意味が実感、納得されるようです。願わくば、日々この充足感の中で過ごしたいものです。が、時には逆流の中に放り出され、苦澁と悲嘆の思いを強いられることも

あつたりします。『日々是好日』といかないのも世の常か。例えそうであっても、これだけは譲れない、任せられないという自我があるのも当然のこと。例えば、目的地へ向かうとき分かれ道に直面、右に進むべきか、はたまた左へ向かうべきか。外野は囁きます、「右だ右。左へ行けば崖から落ちるぞ!」。

また、他方からは「左に決まっているだろう、右はすぐに行き

おーぷん71号

P1-2 日々の権利擁護

理事長 宮代隆治

P3 権利擁護はいま

息子の成長と社会性

育成会員：小泉明子

P4よりよい支援目指して

のまる 泉一成

■各事業所日より

活動報告

P5 ゆたか福祉苑

けいよう

P6 とらのこ、さざんか

P7 カメリアハウス

P8 のまる、のまのま

P9 北総育成園

P10 笹川なすな工房

P11-12 ランプ発

※紙面の関係でさざんか会

後援会主催の講演会について

報告は次回に掲載させていただきます。

なお講師の横内郁子先生には超多忙な

中、さざんかキッズで講演

いただき誌上をお借りし、

御礼申し上げます。





止まり！」と聞こえます。私は迷います、右が正解か、いや左が…。でも、どちらかを選ばなければなりません。こんな時、例え選んだ方が間違っている

も、それは確かに残念だし後悔もしましようが、自分で選んだ結果なら諦めもつくというものです。しかし、これが他人から強いられた結果なら、自身の意志のかけらもなく強要されたものなら、その悔やみや嘆きは倍増してしまいそう。

「自分らしさ」の根底には、「自分の意志」や「自分の思い」が発揮されることが約束されないこと、実現しないもののように思われますし、「自分らしさ」を大切にすることは、権利の擁護に

直結するものと思われる。

さて、改めて障がいのある人にとつての「権利擁護」とはどんなことでしょうか。

長い間、障がいのある人は不自由で、非力で可哀そうな人と思われていました。残酷無慈悲な世の荒波から守ってあげなければ。だから、そのための特別な場所を用意してそこに保護收容してあげて、不自由のない生活を送らせてあげないと。そうそう、訓練や指導も必要。成果を上げて、社会に復帰する人のことも考えましよう。

ざっくりではありませんが、このような思考の結果、施設が作られ多くの障がい者がそこに暮らすことになりました。家族や生まれ育った地域社会から離れて、そこに暮らすことが多かった。それは、自分の意志を活かした選択の結果、ではなかったようです。知らないうちに決められて、いつの間にかそうなっていた。また、そうならざるを得ない現実のあったことも事実でした。

今日こそ、不十分ながら相談支

援とか、計画相談、サービス利用計画等が制度化されましたが、以前は当人の意志を反映させる、活かすという施策は見当たりませんでした。その典型は「措置制度」でした。行政からの命令として、障害福祉に関する各種施策を利用する、というシステムです。当人の意向より、行政側の判断が優位な状況でした。当人にとって、不本意な結果であっても渋々従わざるを得ない…、ということか。近年この制度が廃止されその後、所謂「措置から契約へ」の時代が到来しました。これからは、取捨選択し自分の意志で福祉施策を利用する、ということになりました。障がいのある当人が主体的に判断するのですが、課題もあ

ります。重い障がいゆえに、自分の思いを表現することが難しい、そんな人の意志をどの様に確認、発現させていくのか。ここが担保されないと、この人の権利性は危ういものとなってしまいます。

そこで、私たち支援する側の資質

なり力量が試されることとなります。生活上の様々な場面で、何を好み喜びとするところは。逆に、嫌いな事や不安になることは…。微かな心の動きを見逃さず、一挙手一投足を注視して、状態を正確に把握することが求められます。それには、私たちの想像力と創造力が必要とされます。

自分の生活、自分の人生、もちろん主役は「私」です。全て、ここから出発します。全ての人が、こう実感できますように、そのための係わりを極めて行きましよう。そこに、最高最良の支援が見えて来る筈です。



私たちは、どんなに重い障がいのある人も、必ず思いがあり叶えたい暮らしがあり、人生があるとこのことを肝に銘じておかねばなりません。

権利擁護はいま

息子の成長と社会性

船橋市手をつなぐ育成会員・小泉明子

今、山は紅葉も終わり、雪の季節。

数年前までは息子と仲間、家族でバスをチャーターして紅葉狩り登山をしたものだ。また新緑の季節など四季折々の山々も沢山楽しんだ。息子は少々きつい山でもすました顔で足を運び、澄んだ空気や森林浴を満喫していた。

そんな彼にも別な面がある。時にはパニックを起こすのだ。ほとんどの場合私には理由が理解できない。ちょっとデリケートなところのある息子だと承知して接してきたのだが、穏やかな性格の父親が大好きでよく一緒に散歩に行っていた。帰宅した彼の顔は清々しく、満足気だった。残念ながら父親は亡くなり、以後私が同じように対応しようと散歩に付き合った。

彼は足が速いので、私は自転車で

…。そのようにしていても、時には突然怒り出す。泣いている赤ちゃんを見かけると顔色を変えて赤ちゃんの方へ向かおうとするのでヒヤヒヤした。騒々しい場所、大勢の中に長くいること、嫌な音に敏感なのは確かで我慢しているのを感じる。赤ちゃんの場合は「なぜ泣かせるんだ!」と可哀想に思うのだから。ただパニック(怒り)はすぐに収まるのであまりトラブルにはならない。幸いにもここ数年、落ち着いてきたようで、怒る回数がグンと減った。それもはつきりとした理由を察するほかはない。ゆたか福祉苑とグループホームを利用して彼なりに穏やかな暮らしが長く続いている。近頃ホームでは、仲間と洗濯

物を干したり、片付けたり手伝うこともあるようだ。仲間と一緒に暮らすことで「自分と他の人」を意識するようになったのだろうか。もともと他人の行動に敏感で、必要以上に周り(人)に気遣いし過ぎる傾向があったが、心の知れたルームメイト4人と世話人さんとの生活で落ち着いてきたのかもしれない。食事もゆっくり食べる

よう薦めてもらい、世話人さんとの関係も良好で安心している。送迎の往復の車中、世話人さんが歌を歌ってくれ。息子は聞き入っているようだ。みんなも心の中で一緒に口ずさんでいるかもしれない。どつりでこの頃、日曜日は、NHKのご自慢が、お気に入り番組に昇格。

父親が亡くなった当時、パニックのあった息子と対峙するには覚悟が必要だった。できるだけ父親のやり方を変えないようにすることを心がけた。今にして父親のあの難さを痛感する。息子の時折見せる寂しそうな表情を見るのはとても辛いので、できるだけ彼の要求には応じるようにしている。外出も〇〇へ行くから△△駅で降りるのよ、とこころ理解し、納得して自分から動くようになったことは大き

な成長である。彼は、むしろ私を労わらなきゃとでも考えているようで、重い荷物は持ってくれる頼もしい大人になった。

年齢的にはすでに大人。しかしまだまだ成長していると感じる。あんなに嫌がっていた脳波検査を10分余り椅子に座って受けられるようになったのはとても嬉しい。朝夕出かけるときに「近所の方に拳手で「行ってきます!」「ただいま!」の挨拶ができるようになり、褒めてもらうことも。障害は決して軽くないので、私は「何事も世話は親にしかできない、守れない」と思っていたが、それは間違いだったかもしれない。

彼自身、グループホームの暮らしやゆたか福祉苑での日中活動、プライベートな外出などで人との関りの経験をたくさん積み、自立の気持ち芽生えてきたのではないかと思う。

また山登りの機会があったらどんな表情を見せてくれるのだろうか想像して楽しんでいる母である。



よいよい支援を目指して のまる:泉一成

社会福祉法人さざんか会のある事業所で障害者虐待と指摘される行為がありました。皆様に心より深くお詫び申し上げます。

なおご家族のご要望もあり事業所名と具体的な内容固有名詞等の表記については、差し控えてさせていただきます。

支援者が、こうすればいいのにと思い込み、ご家族に了解を得ることもなく、班リーダーに相談もせず行ったものです。

船橋市指導監査課に報告し、市の虐待防止委員会に諮ったところ「支援の延長ではなく虐待でしょう」との判断でした。

事実は事実として重く受け止め、法人全体で再発防止に努めていかななくてはなりません。



支援者の思い込みは時として他者を傷付けることがあります。ほんとにそうなの、どうしたら利用者さんが喜んでくれるのだろう。勝手に思い込んでいることはないだろうか。行為を行う前に一言班リーダーに相談していれば、今回の「虐待行為」はなかったとされています。いわゆる職場内の「報告、連絡、相談」が徹底されていなかった。

さざんか会では、4月辞令交付式に佐久間水月弁護士による「権利擁護研修」を行い、7月全体研修で「行動障害への対応」について柏市の社会福祉法人青葉会の「WITH US」施設長榎雅博さんに講演していただき、利用者の想いに寄り添うことを共感してきました。

これらの研修から次のこと学びました。

- ① 個人の尊厳を遵守していく
- ② 自立には個人差がある。そのため、各自の能力をしっかりと見極め生活していくための能力を磨いてもらう。
- ③ 利用者さんをその気にさせ、できたことを褒めて自立心を惹起して、意思決定につなげる。

そして、私達さざんか会の職員は、次のことを確認します。本人のためと言いながら（支援者らの勝手な判断、憶測、善意でも）その行為が基本的人権（個人の尊厳）を侵すことになってはいないか振り返り、職員が日常の一つ一つ支援を行う時に的確に判断できるよう支援力を身につけていきます。

虐待が疑われる行為があったら、すべてを報告します。私たちは、「失敗」をしたとき、その事実を逃げずに向き合い、何が問題だったか、どうしてそのような問題を起こしてしまったのか。適切に検証し、そのことを職員に自覚してもらい、職場で共有し、行為者本人の責任に終わらせない。職員本人と法人が被支援者に心から謝罪します。その上で、行為の事実関係をしっかりと分析します。

さらに、再発防止のため行動計画をつくり、それを法人全体で共有することを行ってまいります。

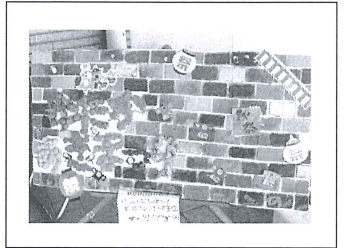
私達は、何度でも支援の基本を思い起こし

- ① 利用者のいいところを見つけられる支援者を目指します
- ② 利用者の仕合わせな人生について想像できる支援者を目指します
- ③ 謙虚に向き合う支援者を目指します

各事業所において、職員が情報を共有することで職場内の「報告、連絡、相談」を確実にを行い職員間の協働をすすめて、「さざんか 10」（職員の努力は足し算、協力は掛け算）の笑顔の絶えない職場をみんなで実現してまいります。日中活動の事業所であれ、入所型施設であれ、グループホームであれ、どのような生活環境にあっても、利用者さんひとり一人は大切な人です。当法人は、今回のことで深く傷ついた被支援者、ご家族に重ねて心よりお詫び申し上げます、再発防止に努めることをお約束します。

（※下線部はまつぼっくり施設長早坂裕実子様作成の権利擁護研修資料から引用）

ゆたか福祉苑



吹く風や毎朝の水の冷たさが身にしみるこの頃
お変わりはありませんか？

さて、ゆたか福祉苑では十月の土曜登苑日に「ゆたか秋祭り」を開催致しました。ゆたかの職員が二つのチームに分かれて出し物(ダンスや太鼓演奏)を披露しました。また、職員で結成した「ひだまりバンド」



の演奏に合わせていらっしやった方々に歌を唄って頂きました。

みなさんの歌を聞いている方々も笑顔になり、会場は楽しい雰囲気になりました。売店では「焼きそば・フランクフルト・からあげ」や飲み物を販売し皆さん美味しそうに召し上がりになっていました。



職員紹介

十一月から新しい職員さんがもも班にいらっしやいました。

福原諒(ふくはらりょう)です。

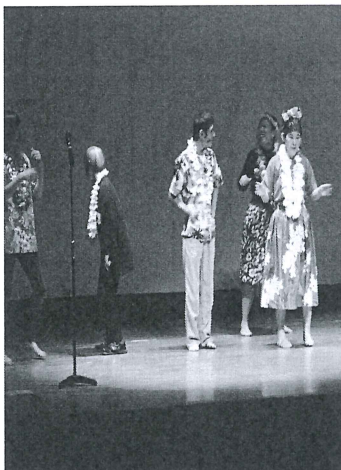
出身は千葉県南房総市です。休日は自宅でゴロゴロしていることがほとんどなので、趣味を見つけたと思います。前職は同業種で働いていました。ご利用者様に毎日を笑顔で楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。今後とも宜しくお願い致します。

秋だより

十一月五日(土)二和公民館で開かれた、ふたわ福祉祭りに参加しました。

グループ名は『ハイビスカス』
ハワイをイメージした衣装で参加されました。

毎週木曜日、高根公民館で練習した成果を見て頂こうと、みんな張り切って踊っていました。歌詞を口ずさみながら踊る方やマイクを片手にリズムを取り、歌って踊る方など、みなさん楽しまれていました。



けいよう



会場では沢山のお客さんが、音楽に合わせて、手拍子を取っていました。そのせいか、会場内が一体となって、ご利用者さんもさらに盛り上がる事が出来ました。

また来年、参加させて頂けるように頑張ります！

けいようでは、秋から冬にかけて行事が沢山あります。十二月には班での外出もあります。寒さに負けず体調を万全にして、みんなで楽しんで来ます。

さざんかのキッズ スポーツの秋

十月二十九日(土)と十一月五日(土)の二日間、からだであそぼ!(運動会が行なわれませんでした☆今回のテーマは「アンパンマン」ということで、オープニングでは、アンパンマンと仲間たちが機関車のS.L.マンに乗って登場しました♪するとそこへ、いたずら好きのバイキンマンが現れました!!「きゃー!!バイキンマンだ!」と驚く子や喜び子等反応は様々。大盛り上がりのオープニングとなりました☆



オープニング後は、準備体操を元気いっばい行ない、身体が温まるといよいよ競技へ!

玉入れやかっこ・サーキットをいきいきとした表情で行う子ども達。友達が一生懸命競技に取り組んでいる姿を見て、保育者と一緒に「がんばれー!!」とたくさん応援していました。

エンディングでは、子ども達一人一人手作りのメダルがプレゼントされ、とても誇らしげでした。練習も本番も全力で頑張っていた子ども達の姿を見て、この半年間での成長を感じる二日間となりました☆



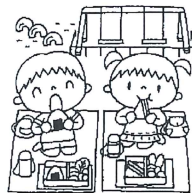
はっぴふっへほ~!!

おーぷん71号P6

さざんかキッズ

イベント目白押し!の秋。親子遠足は「市原こどもの国キッズスタム(九月二十七日ゆり・すみれ・ふたば組、十月二日なのはな・ちゅーりっぷ・あじさい・もも組)」と「葛西臨海水族園(九月二十日にじ組)」へ行きました。たくさん遊んでお弁当を食べて、親子で楽しい一日を過ごしました。

葛西臨海水族園



市原こどもの国



そして十月に入ると「からだであそぼ!」が開催されました。今年のテーマはオリンピック。

オープニングでは聖火が点火!競技が終わることに一つずつ五輪マークが完成していきました。日頃の活動の中でたくさん体を動かしてきたことを保護者の皆さんに見ていただきました。最後は園長から金メダルをもらって誇らしげな表情の子ども達です。



近くの行田公園では紅葉やどんぐりの拾い。お楽しみがいっぱいのさざんかキッズの秋でした♪。



カメラリアハウス

秋行事

★毎年恒例！デイズニーランド！

秋の行事と言えば、カメラリアハウスでは毎年恒例、A・Bグループの東京デイズニーランド一日外出がありました。今年はAグループが10月28日に、Bグループは11月22日にそれぞれ外出しました。Bグループは今年初のデイズニーシーを楽しんで来ました！各グループ利用者さんとっても楽しんだ様子です♪

★C・Dグループ一泊旅行♪



そして、先日11月28、29日にC・Dグループの一泊旅行がありました！

今年は千葉県（房総）に行ってきました！

一日目は、海ほたるで昼食を食べ、ドイツ村に行き、小湊のホテル三日月に一泊し、二日目は養老溪谷に行き紅葉を楽しみました。初めての、C・D合同の一泊旅行でしたが、お天気にも恵まれ皆さん楽しめました♪

カメラリアハウス新人職員紹介

村上 敏明（むらかみ としあき）

出身地 青森県

休日は何をしていますか？

DVDを観たり、ゲームをしたり、バンドのスタジオ練習や、吹奏楽団の練習に参加することもあり、音楽を聴くこと、寝たりしています！

わからない事だらけで、何が分からないかわからないですが、少しずつでも出来ること、支援できることを増やしたいです！

よろしくお願いします。



のまるんるんフェスタ

～2016～

平成28年10月2日に毎年恒例の、のまるんるんフェスタを開催しました。

当日は、晴天に恵まれる中、皆さんとても楽しみにされ、待ち望んでおられる姿が見受けられました。

のまるんるんフェスタの最初を飾ったのは、職員の出し物に「のまるHuman」です。歌とダンスで会場を大いに盛り上げ、楽しく観て頂けたと思います。

続いては、ボランティアグループはか面の皆さんです。はか面の皆さんと音楽に合わせて踊っている方や観客席から皆さんが踊っている姿を見て楽しんでいる方等、はか面の皆さんと一体感が生まれた様に思えました。



午後の部は新人職員による出し物のマジックショーから始まりました。とても不思議な出来事にみなさん目が釘付けになっていました。続いて、スタッフが仮装をして一人一人にバルーンアートをプレゼントしていました。みなさん早く手にしたいよう手で伸ばしておられました。

トリを飾るのは、ボランティアの有馬さんによる演奏です。一緒に歌を口ずさみ、手拍子などをして盛り上がっていました。

今回も晴天の中、のまるんるんフェスタを開催することができ、みなさんとても楽しめる事ができて良かったと思います。



のまのまから嬉しいニュース

就職おめでとー!!

現在、のまのまホームズジャント二才に入居されている谷川実さんの就職が決まりました!

平成二十一年よりゆたか福祉苑から、更なるご自身の成長を目指し、千葉市の「でい・まさこ」へ、日中活動の拠点を移すことになりました実さん。得意の電車・バスの知識を生かして、新京成く京成本線くバスと乗り継ぎ、片道1時間半の道のりを、雨の日も雪の日もある震災の時もまじめに通い続け、「仕事」に取り組んで来ました。言葉でのコミュニケーション

が課題だったご本人の努力が実を結び始めたのは平成二十六年、「でい・まさこ」「でいさくさべ」の両事業所職員より強いお勧めを頂き、就労継続B型「でい・まさこ」にて本格的に就労を目指すことになった時からです。

「でい・さくさべ」内にて厨房関係や清掃を行う「よろずや」に所属し日々仕事をしながら



ら、ハローワークに登録、企業との面接等の就職活動を行い、二十八年十月就職の内定を頂き、1ヶ月の試用期間を経て十二月五日晴れて就職という運びとなりました。千葉県若葉区にてハウス内にて水耕栽培を行うお仕事で、ご本人もやる気に満ち溢れています。一番はご本人の努力ですが、「実さんなら出来ると思います」とご本人の背中を押してくれた「でい・まさこ」、「でい・さくさべ」の職員の方々、ご本人を日々支え続けてくれた関係者の皆様ありがとうございます。

さらなる飛躍を祈って！
フレイ！フレイ！実さん！
これからも頑張ってください！
(奥野太平)

北総育成園 秋の作業報告

支援課長 猪田昌宏

平成28年も早いもので12月となりました。本日に月日の早さというものを感じます。

さて北総育成園ではこの10月から11月にかけて12場面の販売がありました。(10月は6場面・11月は6場面)

北総育成園の秋の作業はどの作業班も大忙しです。これに毎週のように続く販売に出店。毎年10、11月は作業の最盛期を迎えます。農耕班は葉物の収穫。今年は9月の長雨と日照不足で、全国的に野菜の収穫量が減り、値段は高騰し



11/3 地元東庄での販売
16万円を超える売り上げであった

ました。そんな中で農耕班の小松菜はとても良い出来で皆さんに喜んで頂けました。園芸班はシクラメン、紙工芸班・陶芸班は干支人形製作。来年は酉年です。特に林産班はこの各種販売に標準を合わせ、生椎茸を発生させるべく土・日も作業時間を確保し、原木運びをしてきました。林産班は重たい障がいの方が多いですが、黙々と原木を運び姿は本当に格好良い、まさに働く大人の姿です。11月13日、この日は3場面の販売があり、今年の販売の大きな山でした。林産班の生椎茸は300袋を出荷し全て完売。天気にも恵まれ、この日だけで40万円近い売り上げがありました。

10、11月にかけては遠く船橋から習志野台・三田習・塚田地区の皆さんが作業ボランティアとして来園して下さいました。どのボランティアさん方も武井園長との長年のお付き合いで、毎年忙しい作業を手伝って下さいます。限られた時間ですが、皆さん本当に「北総の為に」と仕事をして下さいました。「ボランティアさんこそ、最高のオンブズマン」。北総を支えて下さる大切な方々です。

「働くこと生きること」「出番のある暮らし」。北総育成園の利用者の平均年齢は現在55歳。高齢の方重度の方も増えひところの勢いは

なくなっています。日中は全利用者さんがいずれかの作業班で活動しています。そこに仕事があり、仲間や職員から声をかけ認められる。「明日もまた頑張るぞ。」そんな毎日の小さな積み重ねが利用者さんの生きる力と気持ちの張りになります。手芸介護班・ありのまま芸班は障がいの重たい方、介護度の高い方をお世話する仕事。食事・排泄・水分補給・バイタルチェック、師岡看護師にも相談しながらの毎日。それでも手芸介護班の袋物や刺し子製品など、質の高い製品作りに努力しています。どんな障がいの重い人でも、その出番と役割を大切に「働くこと生きること」の毎日です。

平成14年度には年間1200万円を超える売り上げを上げた作業も現在は600万円程。働くエンジンは半分になりました。それでも大人として働くという事に拘って8つの作業班が稼働しています。

武井園長はいつも私達職員に「利用者さんの仕事に付加価値をつける事。」と話されます。利用者さん一人一人の仕事は小さな生産力かもしれませんが、一つ一つが尊い仕事であり生産力です。その利用者さんの仕事をどう活かすか、形にするかは職員次第です。そして全作業班が社会に通用する製品作りを目指します。「生椎茸、肉厚

で美味しいね。」「綺麗なシクラメンね。」お客様からそんな一言を頂ける瞬間が「今年も利用者さんと頑張ってきて良かった。」と思える瞬間です。



11/7 塚田地区ボランティアさんと
林産班のメンバーで原木運び

今は販売もひと段落し、紙工芸班・陶芸班の干支人形や木工班の門松など、年末に向けてラストスパート。また農耕班は冬の大仕事、切干大根作りが始まります。年明けの段取りの仕事です。年明けには林産班の新原木三千本の菌打ちも始まります。

今年も残りわずかですが、利用者さん・職員でもうひと踏ん張りして新しい年を迎えたいと思います。



笹川なずな工房秋のイベント販売

支援員 .. 金島 礼奈

当施設では、9月下旬～11月下旬までは近隣町の産業祭や特別支援学校の文化祭などイベント販売の最盛期となります。イベント

販売は土・日が中心となるので、週末にかけてはイベント販売の準備に加えて、通常の販売分、納品分の製造も入り、作業内容もやる事が盛り沢山で活気一杯の作業が続きます。イベント販売の際



は、利用者さん、職員だけでも手
が足りず、保護者の皆様にお手伝
い頂きながら進めております。

中でも、11月3日の東庄ふれ
あい祭りと山田ふれあい祭りは
地元の大きなイベントであり、今
年も利用者さん、保護者ポランテ
ィアをはじめ、職員でなずな工房
総出で準備・販売に取り掛かり、
55万円という大きな売り上げを
残す事が出来ました。

11月27日、秋イベント最後の
販売は、佐原ふるさとフェスタで
しました。天候は生憎の雨となってし
まいましたが、お客様が来場され
る頃には雨も止み、ステージでの
ダンスやお笑いライブ、子供たち
に人気の会場内を走る列車が動
き始め、各出店テントも販売を開
始。始めの頃はポツポツと少なか
ったお客様も一人足を止め、もう
一人足を止め、と多くのお客様に

来店して頂け、出店テントの中は
多くの人で賑わうようになりま
した。どの販売場面でもですが、
保護者ポランティアのお母さん
方と利用者さんの協力あってこ
そだったと思います。毎年ポラン
ティアをお願いしており、呼び込
みや会計、袋入れに入って下さっ
ています。寧ろ私達職員がポラン
ティアになっていないかと錯覚
する程の接客術には心強さを感じ、
また、声を上げ販売に活気を
出し、お客様を迎えました。

会場は佐原でありましたがお
客様の中には、毎日納品させて頂
いている「風土村」という常設
店で「いつも買ってるよ。ラウン
ドのチョコが美味しいよね。」と。
別のお客様からは週に一度販売
へ行く児童館でパンを購入する
というお客様は、「かぼちゃのチ
ーズケーキが子供も好きでねー」
と、最後には「また来ますね」と
笑顔で帰られていきました。なず
な工房が地域に定着している事
を、お客様との触れ合いを通じ感
じます。また、最初にラウンドを
購入されたお客様が2回、3回と
何度もいらっしやいました。その

お客様からは「なんで何度も来る
か分かるか?」この皆の接客が
気持ちいいからだよね」と有難い
言葉を頂きました。イベント販売
ではお客様の生の声を聞く事が
たくさんでき、良い刺激と共に有
難い気持ちになります。なずな工
房を知って頂けることが何より
です。こうして有難い言葉を頂け
た事、見て下さっている方がいる
のだと実感できる事、本当に感謝
です。

今年のイベント販売は無事終
了。イベント販売だけで200万
円を超える売上げとなりました。
利用者さん、職員共に「売れた!」
「完売!」の言葉にほころぶ笑顔。
仕事が忙しい状況の中でも愚痴
一つ言わずに黙々と作業に取り
組む仕事熱心な利用者さんには
日々尊敬し、一緒に一つ一つの製
品を作っています。そして保護者
の方のご協力、笹川なずな工房を
見守って下さっている地域の
方々と多くの方に支えて頂いて
いる事をバネに、よりよい支援を
目指し、共に作業に励んでいきたく
いと改めて痛感した、2カ月に及
ぶイベント販売でした。

ラジック発

魔法のラジック管理者 山田朝広



こんにちは。いつもご拝読頂き誠にありがとうございます。

皆様よりいつもこの記事を読んでいるというお声を聴かせて頂き、非常に嬉しい反面、恥ずかしい思いもあります。元々、私自身、国語力が低く、普段映像ばかりが主になってしまい、一切読本をしないので、文章力に自信が持てません。

しかし、漢字は覚えるだけなので、多少の自信はあり読み書きはある程度出来ると言えます。少々関係のない話かもしれませんが、先日身内のパソコン打ちの手伝いをしたのですが、その際に「コピー&ペースト」「ペース」という言葉を「コピー&ペースト」と言ってみたり、「WiFi無線」と言ってみたり、驚きの発言をして私が指摘をしています。

誰でも興味が無いものは、読みの間違いをするのですね。おそらく私の文章力も読解力が無いので、通じるものがあると思います。

さて、前置きが長くなりましたが、本題に入ります。今回は編集部の方より当事業所における「ご本人の意思決定」にまつわる事を聞きたいということで、書かせて頂きます。このような内容なので、スタッフにもアンケートを取り聞いています。

まず当事業所は、他の事業所と違い、ご本人の余暇を支援するお仕事になりますし、マンツーマンでの支援ですので、当然「ご本人の意思決定」を尊重していかねばならないと思っております。但し、社会のルールというものが有りますので、許される範囲でのサポートをさせて頂いております。

例えば、ホームで電車を見たいという方に対して、じっと待って電車を

① 行き先について

・ 選択肢を増やす為、どこかに出掛けた時には無料のパンフレットなどを持ち帰り、担当の利用者様が好みそうなものがありそうな時に、それを出して視覚支援ツールとして使うことがあります。

・ 「ヘルパーお任せ」という際に、時間やお小遣いを気にしすぎず、時間を持て余してしまう事があり、ご本人様の意思とは関係なく、ただ連れ回してしまっただ事がありました。

・ ご家族のお勧めや危険度が無いような道では、ご本人様の意思を尊重する為に、先に歩いて頂く事があります。

・ ご本人様の意見を尊重しサービスとして帰宅すると、ご家族とご本人のご意見の相違があり、ご家族に「なぜっ」という疑問を持たれてしまっただ事がありました。

② 電車の乗車位置

・ 基本的には好きな席に座って頂きます。極力座って頂く為に空いている一番端(先頭、若しくは最後尾)の車両にご誘導させていただきます。

- ・ があります。
- ・ 殆どヘルパーで誘導していただきます。なるべく車両の壁際の席（主に優先席）に誘導し、誘導を気に留めない方は本人にお任せして座って頂きます。

- ・ 基本的にはご本人が座りたいと思っっている所に座って頂きますが、時々隣に座っている人に手が伸びてしまう人は、端に誘導して移動して頂きます。

- ・ 乗り物に興味がある人は先頭車両に誘導したり、そんなに興味が無い人は、基本的にはヘルパーも好きに過ごして頂きたいので、車両の壁のある端に誘導し、足を投げ出したり、体を捻って窓の外を眺めて頂いたりしております。（両隣に人がいて、この行為をしていると迷惑行為となってしまうので…）

- ・ ③ 食事を選ぶ時
メニュー表にある写真等を見て頂き、どこに視線を送っているかを気にしています。また、事前に記録などを確認し、好きな物が何かを調べています。

- ・ ご自身での意思が明確でない方に対して、同じ値段の別の物を二つ注文し、実際に手に取られた方を召し上がって頂くことがあります。残った方はヘルパーで食べています。

- ・ マクドナルド等は、パッと見て違いが分かりづらいので、口頭で説明しますが、理解して納得して頂けているのかなど不安に思っ事が多々あります。

- ・ ディスプレイがあれば、好きな物を指差して頂きます。またメニューの写真を見て選んでいると思う場合は、そのまま注文します。適当に指を差していると感じた場合は、好きな物を事前に把握しておき、それをヘルパーで注文しています。

- ・ 以上、前記にある様にスタッフ一同、工夫をして意思決定を尊重している場面もありましたが、時々安全面を重視するあまり、意思を尊重できない場面があることも見受けられました。好みの物については、ご利用者皆様、写真を見て選ぶという経験をされてこなかった方もいらっしゃる

ので、意思を確認するというのが難

しい場合もあります。また、ご家族のご意見とご本人の意思が違うということもありますので、こちらはご家族とスタッフとで話をし、ご本人が如何にご自分の意思を貫き、楽しんできたかという事をご家族に伝えなければならぬということを感じました。ご本人様たちの意見を代弁するのも我々の仕事のひとつと考えております。

また、こんな意見もありました。『人から言われたことを思い返しなから、「ピン投げない」「電車の中は歌わない』等と言う方がいます。ある日支援中に「エレベーター乗らない」と聞いたので、「こちらが「はい」と返事するとすぐに「乗る」と返してききました。「乗って良いよ」と話すと小走りに嬉しそうに向かっていったそうです。「〇〇しない」「〇〇したい」ことなのかと理解しました。もしかしたら集団生活の中でご自分のやりたいことも止められてばかりなのかと感じ、たくさんの要望に添えていきたいと思いました。』これは、社会のルールに縛られたご本人とまた、どうしても集団の場で生活しなくてはならないご本人の見極めをして、

「してはいけない事」「して良い事」の又ミ分けをし、お伝えしていくことも必要な事と感じました。



最後に「意思決定支援」はこの仕事をしています。感じてはいることですが、それを引き出すのは非常に難しいことです。なぜならば、我々はいろいろな経験を積んで選択肢を増やしていくのですが、ご本人様たちは初めての経験を自身の不安から拒否されてしまうので、やはり経験不足ということが否めません。その為、選択肢が増えず、狭い選択肢の中で決めなければならぬことが多く見られます。割と今はいろいろと制度が確立してから、皆様外出される機会も増え経験値も上がっております。ですが、やはり未だ経験が不足している様に思います。今は差別解消法も成立しましたし、その中で社会が「合理的配慮」をすることも謳われております。そこに甘えながら、どんどん経験を積み、ご本人様たちの「意思決定」を延ばして尊重し、支援していく方向に向かっていかなければならないのかもしれません。